加ストリジウム毒素抗原検査		8125000		
		担当部署		
CD 毒素抗原		微生物		
検査オーダー				
患者同意に関する要求事項		患者自身が採取する場合は良質の検体が採取できるように適切な採取・保存方法を十分に説明し協力を求める		
オーダーリング手順	1	電子カルテ→指示①→検査→*7.特殊細菌→		
	2			
	3			
	4			
	5			
検査に影響する臨床情報		確定診断は臨床症状や他の検査結果等を併せて担当医師が総合的に判断すること。		
検査受付時間		8 : 15～16 : 00		
検体採取・搬送・保存				
患者の事前準備事項		該当なし		
検体採取の特別なタイミング		特になし		
検体の種類	採取管名	内容物	採取量	単位
1 糞便	細菌 便容器 1	なし		
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				
検体搬送条件		室温 採取後直ちに提出		
検体受入不可基準		1) 検査ラベルがない検体 2) 無症候キャリア又は抗ディフィシル薬投与後の患者検体は用いないこと。 3) 大腸洗浄、バリウム注腸検査、便秘薬、あるいは腸管前処置が本品の性能に及ぼす影響についてのデータはない。過度の希釈や添加剤が性能に影響する可能性があるため、このような検体は使用しないこと。		
保管検体の保存期間		2 週間（再検査・追加検査は要連絡）		

検査結果・報告						
検査室の所在地		病院棟 3 階 中央検査部				
測定時間		1～2 日				
生物学的基準範囲		陰性 (-)				
臨床判断値		該当なし				
基準値					単位	なし
共通低値	共通高値	男性低値	男性高値	女性低値	女性高値	
設定なし	設定なし	設定なし	設定なし	設定なし	設定なし	
パニック値	高値	該当なし				
	低値	該当なし				
生理的変動要因		該当なし				
臨床的意義		<p>院内感染や市中感染として C. difficile 腸炎による症例が増加しており、積極的な検査体制が重要となってきた。健常者では約 10%が腸管内に常在し、抗菌薬投与者では 20%程度に上昇するとされる。C. difficile 感染症は加齢、重篤な基礎疾患などの患者が抗菌薬投与により腸管細菌叢の攪乱が生じ、C. difficile が定着・増殖する 「臨床微生物検査技術教本 2017 年」</p>				